

Hauser
Moral Minds
Chap. 2 Justice For All
pp. 60-85

1. スポーツカーの事例:新車のスポーツカーを運転していた男が足から血を流している子供を道端に発見する。子供から病院に連れて行ってくれと頼まれる。子供を乗せると車の内装の修繕に200ドル必要になるが...

→この子供を病院に連れて行くことは男の義務か？

2. 施しの事例:男の下にUNICEFから寄付の依頼が郵送されてくる。50ドルの寄付で25人の子供をの命を脱水症状が原因の死から救うことができる。

→この25人の子供達のために寄付をすることは男の義務か？

・もし我々の持つ利己的な遺伝子や、利己的な行動心理に基づけば、どちらの場合でも「No」と答えることになる。しかし、別の行動心理によって1の場合で「Yes」と答えてしまうし、少ないとはいえ2の場合で「Yes」と答える人もいる。

→1の場合で「Yes」、2の場合で「No」と答える。

○なぜ1の場合と2の場合で判断が分かれてしまうのか？

・1の場合と2の場合を類似点と相違点に分解してみると.....

○費用便益分析:

- ・1の場合:200ドルの支出で一人の子供の命(足)を救うことができる。
- ・2の場合:50ドルの支出で25人の命を救うことができる。

→費用便益分析では、2を選びたくなるが、実際に人は1のほうを選んでしまう。

○法原理や宗教上の教義に訴える。

○子供達の困難をひきおこした原因に注目する。

○登場人物が同じ集団内の人間であるかどうかという点に注目する。

- ・1. 同じ集団の人たち
- ・2. 別の集団の人たち

→1の場合と2の場合を同等となるように書き換えることが可能。

- ・1'. 55歳のアメリカ白人男性と、スーダンから来た10代の黒人。

→それでも1. のほうに惹かれる。

○行為との距離・関係で判断する。

- ・1. 身近な場所で生じる、直接に自分で行う行為
- ・2. 離れた場所での、自分で行うわけではない行為

→もし我々が、高い程度の確かさで、同様に重要な何事かを犠牲にすることなく、何か悪いことを直接妨げることができるのならば、我々はそれをなす義務がある。

VEILED IGNORANCE

○ロールズ: 20世紀において道徳哲学に最も重要な貢献をした一人。

- ・『正義論』
- ・公正としての正義の原理: 公正は正義である。
- ・科学の道具を使用することで、我々の持つ道徳感覚の本性を理解可能。
- ・無意識的な原理が我々の道徳判断を駆動させている。

○ロールズの観点の4つの特徴

(1) 公正としての正義の原理を、チョムスキーと同じ手法で探究する。

- ・道徳体系と言語の体系には、多くの類似点がある。
 - ・表現と解釈の範囲に制限がない。
 - ・限定的な経験から、新しい場面に対して直観を与える。
 - ・入力と出力は非対称的。

(2) 人は公正であるか不公正であるかについて、なぜそうであるかを自覚せずに宣言することがしばしばある。

→公正の諸原理について知ることは何を意味するのか？

○言語とのアナロジーに頼ったロールズの示唆：

- ・道徳に関連した判断の多くは、急に現れたり、熟慮なしに生じる。
- ・明らかな正当化や説明が出来なくとも判断は下される。

#異なる知り方というのがいくつもあり、知識の特定の領域では、自分がなすことや知覚することが、表現できない原理に基づいていることがわかるかもしれない。そのような原理を表現するためには、言語学や数学、音楽といった関連する学問分野で正式に訓練されなければならない。道徳的ふるまいの説明を与えるときになされる説明は、基礎となる原理とはほとんど関係がないかもしれず、意識的な推論がなされる感覚は錯覚である。たとえその原理に気づいたとしても、判断が変化することは明らかではない。

→道徳的理解の土台となる原理に意識的に利用しても、我々のなす道徳的判断にほとんど影響を与えないのは、言語の原理を知ることが会話にほとんど影響を与えないのと同じことである。

(3)無意識だが効力のある原理と、行為を熟考するときに表現された原理とをつなげる試みであること。

○重要視される判断considered judgment:

- ・この判断によって道徳的衝突が解決される。
- ・迅速に、自動的になされる判断。大いに自信を持ってなされ、激情や利己的興味なしになされる。特定の道徳原理や規則を意識することなくなされる。
- ・正義感覚の行使に都合の良い条件で表現される。
- ・なされた判断は、改定や改良、拒否に対して開かれている。

→したがって、理想的な条件のもとでなされる判断を導く諸原理を区別することが重要となる。(?)

What is important is to distinguish between the principles that guide judgments under ideal conditions with those that underlie judgment in the face of an actual moral dilemma, happening in the here and now and requiring an immediate response.

(4) 人間の集団が公正としての正義の諸原理を議論するために原初状態の中に集まっている。ここにおいて、

- ・個々人の行為の報酬を分配する仕方を評価
- ・生れつきの有利不利が最後の成果についてどう関わるかを評価
- ・公正としての正義の諸原理が制度の構造やその制度を構成する人間にどういう影響を与えるかを評価

→社会契約主義の伝統に従っている。契約は正義の諸原理を理解するための方法であり、理想像。

→原初状態での議論の進行に制約が課せられることで正義感覚の中核となる諸原理に接近可能となる。

○無知のヴェール a veil of ignorance:

- ・正義について考える際に障害となる、自分や他人の個人的な特徴(年齢、財産、宗教上の信念、健康、民族的背景等)についての知識がわからない状態。
- ・全ての参加者は利己的にふるまうことによって、公平であることが強いられる。
- ・参加者は合理的な判断が可能な「合理的な個人」。彼らは自然に起こる判断 spontaneous judgments を生成する。それはある規則や基準を意識的に適応することによってではなく、状況そのもの、直接観察することで感じる反応によって決定される。

○無知のヴェールの下で全ての人が同意する正義の二原理：

- ①社会の構成員はみな、基本的諸自由に対して同等の権利を持つ。
- ②社会の財の配分は、最も貧しい構成員の利益となるように努めるべきである。

→ハウザーの指摘する2つの点：

- ・これらの二原理が生得的な資質の一部であったとしても、受け容れる必要はない。
- ・ロールズの正義の諸原理が誤りであっても、彼の彼の方法論的計画はなお有効。

- ・ロールズが言語的アナロジーを使用することが重要なのは、我々のなす公平さの理解のある側面が、我々の意識の外側に働く原理を当てにする可能性が出てくるから。

JUST PARAMETERS

○ニューヨーク証券取引所のCEO、Richard Grassoは高額報酬を蹴って転職した。

→彼に対して社会が示した嫌悪感は道理にかなったものだろうか？

- ・道理にかなっていない: 彼よりも高額報酬をもらっている人もいる。
- ・道理にかなっている: 努力にもとづいた富の配分という公正の観点からみると、もらいすぎ。
- ・言語のアナロジーをあてはめることで期待される、普遍的に所有される公正の原理は、媒介変数の異なる関数のように異文化間でそれぞれ異なるものである。
 - ・場所に特有の環境によって公正は文化的に特有のものとなる。
 - ・パラメータが設定されると、公正の判断は文化をまたいだ包括的なものではないようにおもえてしまう(=語順が文法にかなっているかどうかの判断)

→原理とパラメータの関係はどのようなものなのか？

○Bakerの料理の比喩: 諸原理は料理のレシピに似ている。

(1) 材料や要素がパラメータに相当する。

- ・必要な材料と、任意の材料とがある。
- ・材料が一つ付け加えられることで、他の材料と相互作用が生じる。
- ・特定の順番で物事を進行させなければならない。
- ・材料が展開していき混ざり合うという料理の連続的な過程が、特定の決定がそれぞれの段階でなされるという関連のない過程へと変化していく。

→言語の中でパラメータはこのように働くが、道徳でも同様のことが生じている。

(2) リバースエンジニアリング

- ・生産物を見ることで、その材料や製造過程がある程度理解できる。
- ・オリジナルのものとは異なるレシピが再生される。

・一つのレシピは同種の生産物を生み出すが、それらは材料・オーブン・経験等の質によって違いが生じる。

○語順パラメータについての考察:

- ・疑問文を作るとき、語をどのように組み立てるかは言語によって異なる。
- ・もし言語がどのようにも変化できるのならば、多くの語順パターンを見出すことが可能であろうが、特定の語順パターンが見出されるだけであるので、言語の変化は限定された範囲でのみ可能となる。
- ・成長する中で学んだ言語が、最も適切な原理とパラメータを設定してしまうので、言語を乗り換えるのには制限があると考えられる。
- ・もし原理とパラメータのアプローチが正しいのならば、中核となるパラメータがどのように設定されるかをつきとめることで言語的多様性を特徴付けることが可能となる。
 - 不可能な言語セットを突き止めることも可能となる。

#言語のデザインについて考える時のパラメータの重要性については言語学者の間でも不一致があるが、パラメータという考えは道徳や公正について考察するためには有効。

○Grassoの事例:「公正」が意味することは何か？

→Lakoffの公正さの10層の分類法:

- ・公正さの主張は詳細な記述がなければ実質のないものとなる。
- ・我々の判断が交換や配分の特定の項目によって支配されるときには「公平であったか？」と問うことに意味はない。
- ・公正の判断をなすためには、関連する媒介変数が、配分・機会・責任・権力等にどのようにむけられているか、を評価しなければならない。

→ある一つの形態の公正さを実行する社会は、他の形態の公正さを実行するのか？

GAMES FOR ADULTS

○実生活テレビ：16人の漂流者がポリネシアの島で2つの集団に分かれてダーウィンの生存ゲームを開始。39日後に最も適応的であったRichard Hatchが勝者となり、高額の賞金を獲得した。

Hatchの戦略：

- ・他人と同盟をくむ。
- ・他人を傷つけないようにする。
- ・ゲームに勝利するために必要なことに基づいて行動する。

→Hatchはルールのあるゲームを戦った。

○こうしたテレビ番組は人気がある。

- ・他人が誘惑と葛藤のために努力するのを見るのを好む。
- ・特定の行為が許されるかどうかに関心を持ち意見を述べるのを好む。

○問い：特定の行為にたいして我々がなす判断を導く諸原理はどのようなものか？

・たいていの協同ゲームを駆動させる直観:人間の心は利益や報酬を最大化するように設計されてきた。

→もし離反の報酬が協同の報酬よりも多ければ、離反する。

映画『スコア』:Nortonは貴重な笏を盗み出そうと計画を立てるも、実行の重要な部分でDe Niroの手が必要となる。分け前は6対4だというDe Niroの主張にいったんは同意したNortonであったが、盗みの最中に心変わりし、全てを自分の物にしようとする。しかしDe Niro はNortonの変心を見破って裏を書いたので、結局Nortonはびた一文手にすることが出来なかった。

→ひとたび格差のある報酬の機会に気が付けば、プレイヤーはそれぞれ素早くその違いを見破り、しばし無意識かつ電光石火の速さで、利益を最大化する戦略へと移行していく。

・多くの協同ゲームでは、離反が最良の選択である。

・人々が利己的かつ報酬を最大化するためにできることをなす、という前提のもとで、どのように人は富を割り当てるか、を調べるふたつのゲームについて考える。

○独裁者ゲームと最後通牒ゲーム:

- ・二人の被験者が提案をする側と提案を受ける側に分かれ、提案者に渡された10ドルを二人がどのように分配するかを調べる。
- ・提案者は10ドルのうちのを受領者に渡すかを判断する。
- ・被験者はロールズの「無知のヴェール」をかぶっている。
- ・被験者間には交渉の機会はない。

○独裁者ゲーム:提案者がいくらかを渡すかを受領者に示して、ゲームは終了。

○最後通牒ゲーム:受領者は提示された金額を受け取るか拒否するかを決定可能。

- ・受け取る→受領者は提示された金額をもらい、残りを提案者が受け取る。
- ・拒否する→二人とも、一ドルももらえない。
- ・提案者が合理的な人物homo economicus ならば、どちらのゲームでも可能な最小の金額を提示するはず。独裁者ゲームなら0ドル、最後通牒ゲームなら1ドル。
- ・ところが、産業化社会での実験結果はこの予想とは異なったものとなってしまった。独裁者ゲームでは0ドルを提示しないものが、最後通牒ゲームでは多く提示する提案者と、提案を拒否する受領者が現れた。

→プレイヤーが非合理的に行動している。なぜか？

○標準的な説明:

- ・人間はhomo economicus として進化すると同時に、公正の感覚を持って生まれてきた。
 - ・NowakとSigmund: homo economicus というフィクションは、本能や感情によって制御されている「制限された合理的な」決定者にとってかわられている。
- homo reciprocans: 最後通牒ゲームで受領者が提示を拒否するのは、それが不正なものだと判断しているから、と解釈する。

○共同的な相互作用はしばしば繰り返し行われる。

- ・独裁者ゲーム: 0ドルを提示するAさん、5ドルを提示するBさんとのゲームの後、次に自分が提案者になった時にはどのようにふるまうか？

→相手の以前のふるまいを覚えていれば、Aさん0ドル、Bさんに5ドル。

→もし過去のふるまいの情報が得られるのならば、最後通牒ゲームの安定した解決法として公正さが進化する。

・ふたつのゲームは、かつて流浪の狩猟採集民であった人間の初期の進化的歴史をよりよく捉えているだろう。

○放浪生活から定住生活への変化：

・人口増加→他人との交流・協調の機会が増加。いつ誰が何を誰に対して行ったかを思い出す能力が重要になった。

・共有の資源への依存度の増加。

→資源の使用と共有における新たな問題が発生

○コモンズの悲劇：

・資源のオーバーユースの問題。個々人の利己的な資源の過剰な利用を、集団はどのようにふせぐか。

・私有地→貧富の差が増大

・資源の使用を公共の知識にする→個々人の評判が決定的となる。

○Fehrの公共財ゲームの実験:

- ・プレーヤーは非協力者に罰を与えることができる。

→最初はコストを払わずにコモンズから利益を得ようとする人も、手段内の他者が怠け者を罰しうると気が付くと、公共の利益に安定的に貢献するようになる。

○公共財ゲームの実験における罰の解釈:

- ・利己的な解釈: 他人を罰すると、相対的に自分の地位が相手よりも上昇することになる。

→この解釈をもっともらしくしない実験結果がある。

- ・最後通牒ゲームにおいて、受領者が提案者の地位を減少させたいと思えば、5分5分よりも少ない提示は拒否すべきだが、実際には拒否しない。

- ・提案者は10ドルか2ドルの提示のみが可能、という別の最後通牒ゲームにおいて、2ドルが提示されても受領者は拒否しない。

→罰が他人の地位を低下させるとしても、人はコストがかかっても誰が集団内或いは外の間人であるかを明らかにするために罰を下すことがある。

○安定した協同社会を保証する唯一の方法: 良い評判を自由に調べる事が可能であり、だまし屋に罰を与える機会が与えられていること。

○人間は利己的本性を先祖から受け継いできただけでなく、ある利他行動の形態を進化させてきた。→強い互惠性

・強い互惠性:

・他人と協同する傾向性。

・協同の規範を破る人を、個人がコストを払って罰する傾向性。

・強い互惠性の有効性:

・罰の結果としてだまし屋が良い市民に戻る→罰せられた人にとって罰は有効。

・罰は相手を変えることがもくろまれているのではない→罰とは協同者たちのサークルからだまし屋を排除すること。

○人間はだまし屋を罰し、信用できる人の共同的努力に対して選択的に焦点をあてる能力を進化させてきた。

→西洋の工業国の歴史の説明にはなっているが、東洋の国や、アフリカやオーストラリア、南アメリカの小規模な狩猟採集民の社会についてはどうなのか？

EVEN THE BONGO BONGO

・前節の実験は被験者が学生→偏っている。彼らから得られた結論を人間一般にどこまで広げることが可能なのか？

→規模の小さい、産業化されていない社会集団の研究

○Henrichらの研究:

・15の小規模な社会での実験:採集民・焼畑農業・遊牧民・定住性の小規模農業。

・さまざまな交渉ゲームを実験。

・被験者は匿名で、1～2日分の収入に等しい見込み収入。

→実験結果は…最後通牒ゲームでは、被験者が大学生の場合とは異なる結果となる。

・最も多い提案は、15～50%の範囲。

・受領者は、低い提示でも拒否しない場合と、50～80%の高率で拒否する場合とがある。

→この結果は、公正な提案を構成する明確な点がなく、むしろそれぞれの文化の内部の社会規範がベースとなる、重要な異文化的な変異が存在する、ということを示している。

・文化的変異の事例:

○単純農業を行うアウとグナウ(ニューギニア)

・提案は工業化社会でなされる範囲内(40%)

・かなりの高率で拒否する(50~100%)

→彼らの贈り物文化から説明が可能:

・贈り物を受け取ることは、将来お返しをすること約束することになる。また、贈り物はたくさんもらうほうが下の地位にいることになるので、同等のお返しが期待されてしまう。求められていない贈り物を受けると不安になり、公正な提案も拒否されることになってしまう。

○狩猟採集民のアチエイ(パラグアイ)

・低い提示を拒否しない

・一般的に40%以上を提示

→アチエイの、ハンターは獲物を仲間と常に共有するという協同傾向と一致する。

○焼畑農業のマチゲンガ(ペルー)

- ・全てのサンプルの中で最も低い提示をする(15%)
- ・低い提示でもほとんど拒否しない(拒否は10%)

→協力・交換・家族の単位を超えた共有がほとんどないという彼らの文化的習慣と適合する。

*それぞれの社会は何らかの公正感覚を有しているが、不公正の認識についておよび、提案を拒否することで罰を与える点について違いがある。

○これらのゲームで示されること:

- ・公正さは、ローカルな文化によって発達の早い段階で設定されたパラメータを伴った、普遍的原理である。
- ・ひとたびパラメータが設定されると、文化の心理学的な特徴が公正や許容可能なやり取りとみなされることを束縛する。

○大学生を使った実験で全てがわかるか？ → わからない

- ・homo economicus の理論もhomo reciprocansの理論もうまくいかない。
- ・個々人のやり取りの場では、ローカルな文化的習慣に大きく影響を受けている。

→経済学理論に必要な認識:

- ・公正さの普遍的な原理
- ・文化がパラメータ変位を微調整すること